

プラネタリウム通信

空に散りばめられているようにしか見えなかった星から「絵」が見えてくる。

神や人物そして動物などを想像しながら、天上に散らばる恒星を線でつないだのが、星座の始まりだといわれています。夏の夜、海や山に出かけたついでに、満天の星空を見上げてみましょう。夏の星空には、さそり座、白鳥座、こと座、わし座などが見られます。

今月のテーマ：『夏の夜空に輝くさそり座』

●ギリシャ神話が由来

さそり座の由来となったのはギリシャ神話で勇者オリオンを刺し殺した「蠍」。オリオンも星座になったが、蠍をおそれてさそり座と一緒に空に輝くことはない。さそり座は夏、オリオン座は冬の夜空に輝いている。

●特徴的なS字カーブ

さそり座は、南の空低く天の川を抱え込むようにS字にカーブしている。
中国ではさそり座を青龍に見立て、S字にからだをくねらせた天の龍を思い描いていた。

●不気味な赤い星「アンタレス」

さそり座のもう一つの特徴が、赤い星「アンタレス」。
古代の人々は、アンタレスを不気味な闇の力を持つ星だと考えていた。

●日本では「空の釣り針」

日本の瀬戸内海地方の漁師たちは、さそり座を釣り針に見たてて、「魚釣り星」や「鯛釣り星」と呼んでいた。

7月のプラネタリウム

開催曜日：水曜日～日曜日

開催時間：9時～／10時30分～／13時30分～／15時～

定 員：各回 100 名

入 館 料：高校生以上 300 円／中学生以下 150 円

県立学習センター（電話 052-201-XXXX）

